

## 令和 7 年 5 月記者発表

### 質疑応答の概要

#### ③放課後児童クラブにおける待機児童ゼロの 2 年連続達成

Q.

児童クラブの利用者は何名ですか。また、待機児童ゼロ 2 年連続を達成したことについて市長の感想とその要因を教えてください。

A.保育統括監

児童クラブの利用者は 1,191 名です。

A.市長

各市においては、すべての学校敷地内に児童クラブが設置されていることが少ないが、本市は教育委員会と学校にご理解をいただき、全面的に協力いただいているおかげで市内すべての小学校敷地内に児童クラブを建設することができました。一時期、待機児童がでたこともありましたが、学校に協力いただき、各小学校の空き教室をサテライトとしてご提供いただいていることが待機児童ゼロとなった大きな達成要因だと思っています。

#### ⑧総合病院誘致（公募実施）の要項（案）について

Q.

スケジュールについて、候補者の公表は 8 月 20 日とのことですが、早期実現ならいつ頃の新病院の開院を目指しているのでしょうか。

A.市長

病院の開設となるとそれなりの期間を要するため、明確には申し上げることはできませんが、出来る限り早めの開院を希望しています。

Q.

なぜ富谷市が総合病院を必要としているのか改めてお聞かせください。

A.市長

現在、富谷・黒川地域には救急・急性期を担う医療が不足している状況です。市民の皆さんからの住民アンケートでは必ず上位に総合病院が入るほど、市民が長年切望しています。富谷・黒川地域には救急・急性期医療を担う総合病院が不足しており、救急搬送にも時間を要する現状があり搬送中に命を落とす方がいます。そこで、なんとか市民の健康と命を守るため、救急設備のある病院が必要だと考えました。今回残念ながら東北労災病院の移転については断念となってしまいましたが、ここで諦めるわけにはいけないので、公募による誘致で対応させていただきました。

Q.

今の段階で打診や申し込みはあるのでしょうか。

A.市長

今の段階では全くありません。本日、正式に初めて富谷市議会議員全員協議会において、公

募実施の要項案を説明させていただいたところです。これから正式に公募に向けてスタートするところですので、応募については未知数でございます。新しく移転や開設をしていただける医療機関が出ることを期待しています。

Q.

やはり市長としては、仙台市内の病院の移転というのが念頭にはあるのでしょうか。

A.市長

現在、本市を含む仙台医療圏では、急性期病床が過剰だということで、急性期病床を増やすことは認められない状況にあります。そのため、仙台市に限らず 14 市町村で構成されている仙台医療圏の既存の急性期病床を有する病院ということで公募を実施します。

Q.

なかなかの好条件かと思いますが、どの病院からも応募がなかった際のことは何かお考えですか。

A.市長

本日初めて発表したもので、応募については未知数です。医療機関が応募してくれることを切に願っています。

Q.

応募がなかった場合は、期間を延ばすことはあるのでしょうか。

A.市長

公募の要項等については市公式ホームページや市公式 SNS で発信する予定にしていますので、6 月 20 日まで検討する医療機関にはぜひ手を挙げていただきたいと思います。応募がなかった場合は、その時に検討いたします。

Q.

期間までに応募がなかった際は、土地の利用は病院以外の別の利用を考えるのでしょうか。

A.市長

その段階で考えます。

Q.

公募条件として、開院時の病床が 100 床以上とありますが、これは急性期の病床を指しますか。

A.市長

急性期の病床を含めて 100 床以上ということです。

Q.

医療機能の必須条件に、救急医療への対応として「二次救急医療機関としての機能を有し、救急病院として告示されること」とありますが、こちらを詳しく教えていただけますか。

A.市長

24 時間体制で救急を受け入れるということです。

Q.

東北労災病院は病床数が 500 床を超えています。それに比べ、100 床というのはかなりハードルが低いと思うのですが、そちらに関しての考えを聞かせてください。

A.市長

限られた医療機関の中での公募になるので、これ以上ハードルをあげると対象の医療機関が少なくなってしまうと考えました。公立黒川病院や黒川医師会と連携しながら新たなプラットフォームを作り、しっかりとした対応を進めていくつもりです。

Q.

今後のスケジュール感について 8 月 19 日の選定委員会が候補者決定と記載がありますが、仮に複数の応募があった場合、一つに絞るのがこのタイミングなのでしょうか。

A.市長

その通りです。

Q.

スケジュールとしては一カ月程度ですが、富谷市としてこのスケジュール感は一般的な長さとして設定したものなのか、それとも長く設定したものなのかお聞かせください。

A.市長

実際に公募を行った自治体を参考にさせてもらっていますが、類似の自治体よりも長い期間で設定しています。

Q.

参考にした自治体は例えばどこが挙げられますか。

A.市長

大阪府茨木市などを参考にしました。

Q.

救急搬送時間が長くなっているのは、現状の急性期病床数が足りないからと考えているのか、対応する医師の数が足りないからと考えているのか、どちらでしょうか。

A.市長

公立黒川病院で救急搬送の受け入れは行っていますが、年間で 450 件程度に対し、富谷・黒川地域の受け入れ要請が 3100～3200 件程度となっております。年度によりませんが、管内搬送が約 10%、仙台市搬送が約 83%という状況となっております。搬送時間が長くなっている要因は急性期病床数が不足しているのか医療従事者が不足しているのかということに関しては、一概には申し上げることはできません。

Q.

補助金について、支援事業であればどの程度の補助が期待できるのでしょうか。

A.市長

都市構造再編集集中支援事業については、補助事業対象経費の上限が 21 億円で、その 2/3 (14 億円) が補助の対象となっております。そのうち、国で 1/2 を負担していただくということで、その程度の補助を期待できます。

Q.

取得した病院用地の取得額はいくらですか。また、県や仙台市へ要項案を事前にお話ししているかと思いますが、見解などはありましたか。

A.市長

病院用地取得額はおよそ 14 億円です。県からは、地域の医療機関との連携によるプラットフォームを推進していくという意味では、先進的でモデル的な考え方なのでぜひ実現してほしいと評価をいただいています。仙台市につきましては、総合病院の公募は本市が行うものなので、要項等に意見するものではないということでした。

Q.

県から具体的にいくら程度の支援をするといった話はまだ出ていませんか。

A.市長

そういった話はまだいただいております。

Q.

この病院公募の話が出てから、担当者同士で話し合いはされたと思いますが、仙台市長と話す機会がありましたか。

A.市長

お騒がせしているということでご挨拶はさせてもらいましたが、病院に関する具体的な話はしていません。改めて昨日、本市から説明のため訪問させていただいたところです。

Q.

病院建設予定地に関して、バス停が遠いことやバスの本数が少ないことなど、改めて交通の便についてどう考えていますか。

A.市長

支援内容として、泉中央駅からのシャトルバス運行を提示しています。これにより、患者さんや医療従事者の方など関係者の皆さんのアクセス向上を行っていきたいと考えています。宮城交通株式会社とは、東北労災病院の誘致を進めていた段階で協議させていただいたので、引き続き連携していきたいと考えています。

Q.

今回の件を受けてロープウェイの計画に変更はありますか。

A.市長

今年度の事業としてロープウェイ導入可能性調査を行っております。導入可能か、どのコースが適当かなどを含めて調査を行い、調査結果を踏まえて、今後検討していきたいと考えています。

Q.

ロープウェイ導入などの交通の便も含めて、市長としては病院をどのように作っていきたいかを教えてください。

A.市長

救急・急性期を担う総合病院につきましては、富谷・黒川地域の長年の課題でもあり、さらに生命と健康に関わる問題なので、なんとか解決したいという思いで、今回公募に踏み切ったところでございます。総合病院を誘致することになれば、公共交通の利便性の向上は必然的に必要になりますので、そういったところもしっかりと今後に向けて努力していきたいと考えております。

Q.

地域医療連携支援プラットフォームの特徴を教えてください。また、どのような効果が期待できるとお考えですか。

A.市長

特徴としては、公立黒川病院をはじめ他の医療機関との連携というところが大きいと考えています。今回誘致している新病院と、公立黒川病院や黒川医師会、富谷・黒川地域の医療機関との連携を強化し、富谷・黒川 4 市町村が結束して新しいモデル作りに向けてプラットフォームをしっかりと構築していきたいと考えています。

Q.

精神科外来を望ましい機能として挙げた理由を教えてください。

A.市長

当初、東北労災病院と県立精神医療センターの合築に向けた方向性が示され、本市としては、富谷・黒川地域、この仙台北部地域の精神医療が薄弱な地域の強化につながるという期待感もあり、その準備に向けてさまざまな取り組みを行ってきました。しかし、今回は必須条件に加えるとかなりハードルが高くなるため、望ましい機能といたしました。

Q.

精神科を包括する拠点がなく、地域での醸成が育っていない環境で病院を設置することは難しいと思うのですが、そちらについてはどうお考えですか。

A.市長

東北労災病院と県立精神医療センターの合築の方針が示されてからは、それに向けた包括ケアシステムの構築などさまざまな取り組みを行ってきており、これまでも努力し前向きに進めてきたところでございます。

Q.

今回の総合病院誘致やロープウェイの件に関しまして、やはり仙台市との向き合い方が今後重要になるかと思うのですが、何か考えていることはありますか。

A.市長

今後も、その都度、丁寧な説明を欠かすことなく、ご協力をいただけるように努めていきたいと考えております。

Q.

スケジュールに関しまして、6 月 20 日までに参加申請書の提出とありますが、それがないと 7 月 22 日までの応募書類の提出もできないということですか。

A.市長

基本的にはまず 6 月 20 日までに手を挙げていただいて、質問をお受けしたり、協議するなどの対応を行っていききたいと考えています。

Q.

6 月 20 日までに手を挙げる病院がなかった際は、そこで公募は終わってしまうということですか。

---

**A.市長**

---

その段階でまた考えたいと思います。しかし、先送りにすればいいという話でもなく、手を挙げるとすれば病院の老朽化など何かしら課題を持っている病院が対象だと思いますので、6月20日までに手が挙がらなければおそらくその先も難しいと考えております。

**Q.**

---

万が一、手を挙げる病院がなかった場合は、総合病院の誘致を断念するということになるのでしょうか。

---

**A.市長**

---

それはその時に考えたいと思います。しかし、まずは6月5日から、正式に公募の受付を始めますので、6月20日まで手を挙げていただける病院を期待して待ちたいと思います。

**Q.**

---

仙台市長が病院引き抜きを警戒し、仙台市も将来的に高齢者が増えていくが、医療資源を減らされることに対して懸念を示す趣旨の発言をされているが、そのことについてどうお考えですか。

---

**A.市長**

---

14市町村で構成している仙台医療圏の急性期病床は、現在、過剰で新しく増やすことは認められない状況にあります。都市長は、仙台都市圏広域行推進協議会の会長ですので、仙台医療圏全体の課題として、ご理解をいただければと思っております。

**Q.**

---

プラットフォームの医療連携について、誘致する新病院と黒川病院の連携が特に重要ということですが、2つの病院間での機能分担などについてなにか考えていることがあれば教えてください。

---

**A.市長**

---

これからは複数の医療機関が地域の中で、行政も連携しながら、エリア全体でお互いに協力し合い支え合う、そんな体制をつくっていくことが重要だと思っています。富谷・黒川地域はとてもまとまりがあるので、新病院が開設した際には、公立黒川病院や黒川医師会、地域医療機関、そして行政が連携し、それぞれの役割を担っていけば、富谷・黒川4市町村は現在とても結束できているので、新しいモデルを構築することができると期待しています。